

研究の概要

自ら学び、共に高め合う子ども
～考える力を伸ばし、意欲的に学びあう学習をめざして～

育てたい子どもの姿

自分なりの方法で、試行錯誤しながらねばり強く問題解決を図ろうとする子ども

<考える力>

- ・興味・関心をもって、意欲的に取り組む子
- ・生活経験や既習の学習内容から考え、自力解決できる子
- ・基礎的、基本的な知識・技能を身に付けた子

自分の考えをもち、筋道立てて説明できる子ども

<自分の考えを表現する力>

- ・自分の考えを豊かに表現する子（自分の考えをわかりやすく相手に伝えようとする子ども）

互いのよさに気づき、よりよい解決の方法を見い出そうとする子ども

<集団で話し合う力>

- ・考えをつなぎながらよりよい方法を見つけようとする子ども
- ・自分の考えをわかりやすく相手に伝えようとする子ども
- ・友だちの言いたいことを理解しながら聞こうとする子ども

授業（算数のよさや楽しさを味わうことのできる学習展開）を仕組む

自ら学び、共に高め合う学級

学習集団を 高める工夫

- ◎わからないことをわからないと言えるなどひとり一人のおもいを受け止めることができる仲間意識にささえられた集団をつくる。
- ◎学年に応じた「聞く・話す力」を身に付けて、自分の考えを表現できるようにする。（伝え合う力の育成）

1. 単元の構成

(復習・レディネス)

単元の導入(課題設定)

小単元

小単元

まとめ・単元末の評価

単元の指導計画の作成は・・・

- ・指導の実態に応じて
- ・年間計画を基に
- ・時間数, 学習内容, 評価計画を決定
(京都市の指導計画や指導書を参考に)

[補充・発展]

2. 1時間の学習の流れ

足場(本時の主問題の解決に必要な基礎基本となる知識・考え方を再認識する活動を用意する。)

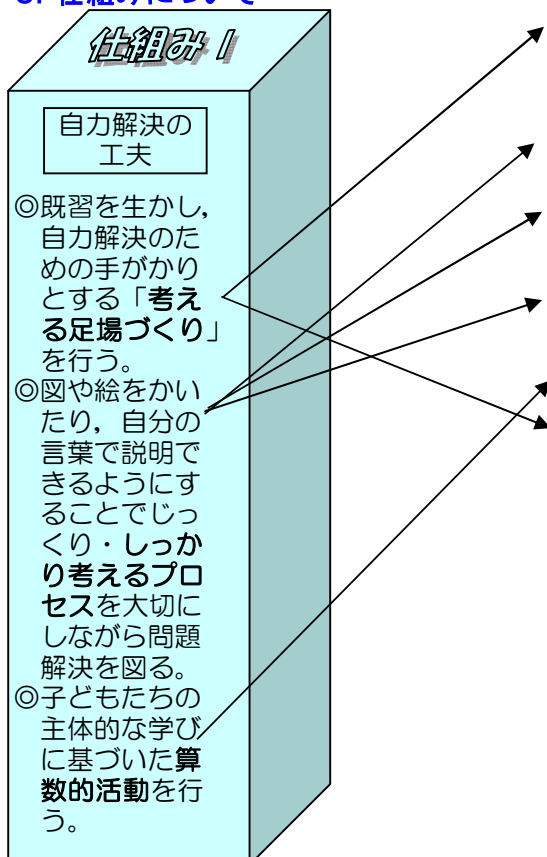
課題設定(課題を与える・問いの発生・解決への見通しを持つ)

自力解決(解決の方針決定, 活動の自力解決・多様な考えの追求・操作・実演・図・表・式の活用)

話し合い(自分の考えの発表, 友だちの考えの理解, いろいろな考え方の比較検討)

まとめ・練習(自分の考え方の振り返り, まとめと練習, 補充と発展, 生活への活用)
補充・発展

3. 仕組みについて



- ①本時のねらいに基づき、子どもにとって何が足場となるかを十分考えて取り組むこと
- ②導入の工夫を図り、児童に「問い」を発生させること
- ③操作する、書く、話す等の表現活動やコミュニケーション活動を意欲的に取り入れること
- ④一人一人の状況を捉え、一人一人に応じた支援をすること
- ⑤豊かな算数的活動の場面を取り入れること
- ⑥掲示物や板書の工夫
- ⑦単元に入るまでの事前指導
- ⑧コンピューターの活用

仕組みIII

話し合い、
練り上げる場
の工夫

- ◎何のために練り上げるのかを明確にし、子どもの考えをつなぐことができるよう、練り上げを構想する。
- ◎ホワイトボードの利用や話型の提示を行い、算数的表現を身に付ける。
- ◎考えを明確にするための板書の工夫。

- ①多様な考え方を引き出し、検討すること
- ②「一般化、簡潔さ、明瞭さ」を追究すること
- ③算数的表現力の育成

話し合い活動の進行の仕方

問題を解決できた喜び・感動の発生(伝えたいという意志の発生)



伝えたい内容を検討・整理(個人)
[具体的操作、図、線分図、式、言葉
等による表現]
自分の考えを説明するための話型提示



発表(表現活動)と内容の検討(集団)
・内容の理解・表現方法の検討
・筋道が確立されているかの検討
・一般性、簡潔性、発展性の検討



獲得した内容の整理、確かめ、自己の考え方の振り返り

話し合いの進め方

A型

- ①A児の発表
- ②A児の発表内容についての質問、意見
- ③B児の発表
- ④B児の発表内容についての質問・意見

B型

- ①A児の発表
- ②B児の発表
- ③C児の発表
- ④発表された内容全体についての討論

AB型

A型とB型の組み合わせ

仕組みIII

確かな学びの
ための工夫

- ◎T、T、や少人数による個に応じたきめ細かな指導
- ◎習熟の程度に応じた補充・発展的な学習を進める。
- ◎一人ひとりの子どもの実態を把握し、指導の方法の工夫につながる評価を行う。

- ①学習したことを自分でまとめるようにすること(教科書に出てくる言葉でまとめるようにする)
- ②知識・技能だけでなく、考え方や態度も評価すること(評価補助簿の活用)
- ③評価規準・学習指導要領に示す目標の実現状況を、判断するよりどころにする。
努力を要する(C)・十分な支援が必要
概ね満足できる姿(B)・概ねできている
十分満足できる子どもの姿(A)・質的な高まりが見られる状態
- ④学習したことを活用すること
- ⑤TT及び少人数指導による授業を進める。

T・T及び少人数指導

★一人一人に決め細やかな指導を行う。

★グループの作り方

- ①無作為に(均等少人数集団)
- ②複数課題の中から選択(課題別・興味関心別)
- ③理解や習熟の程度に応じて
- ④考える力、表現力を高めるために

★単元の指導計画の中に位置づける。

全時間で、単元の途中で、単元のまとめで

★児童の実態、課題を分析し、どんな力を育成するのかを明確にする。

4. 発展的な学習について

対象	・学習指導要領に示す内容を概ね身につけている児童
目的	・学習指導要領に示す内容の理解をより深める。 ・自ら学び、自ら考える力をより高める。
内容	・学習指導要領に示す内容と比較して広がりや深まりがある内容。 ・学習指導要領に示されていない内容。

【発展的な学習の位置づけ】

- ・1時間の学習の後半で実施する。
- ・単元(題材)の途中で実施する。
- ・単元(題材)の終末で実施する。
- ・単元と関わらず、適宜発展を取り扱う。

◎全ての児童が一律に学習する必要はない。
◎発展に取り組まない児童は、補充に取り組ませる。
◎指導計画では時間数を確保していない。
◎児童の実態に応じて、取り扱いを検討する。

5. その他の取組について

- ◎「ぐんぐんタイム」「チャレンジタイム」による基礎・基本の確実な学力の定着。
 - ・ぐんぐんタイム……計算問題を中心に行う。
 - ・チャレンジタイム……学年に応じた内容で、個に応じた学習を進める。
- ◎アンケート(5月と1月に実施)や教育課程実態調査の分析による児童の実態把握及び児童理解。
 - ・教育課程実態調査の分析……各学年の、分析を行う。
各クラスのデータを職員室のコンピュータに入れる。それを基に、各学年の資料を作成します。)
 - ・アンケート実施(別紙参照)
- ◎「算数」に対する興味・関心を高める算数コーナーの設置。
 - ・算数セットの活用。
 - ・場所は学年で話し合って決める。(教室・廊下)
- ◎教材・教具の整備, 購入。
 - ・作成したプリントや掲示物, 教材は残しておく。(後日整理する予定)
- ◎その他
 - ・授業風景や, 掲示物などの資料をデジカメで撮り, 取り組みが具体的にわかるように保存しておく。

今後の予定

研究会日程	内 容
6月17日	研究会3 (全体会授業 3年2組)
6月28日	1年生 事前研究会 (1年2組) 2年生 指導案検討会
7月6日	2年生 事前研究会 3校時 2年1組)
7月7日	研究会4 (部会授業 2校時 6年1組) 6年生 事後研究会

	研究会5 (部会授業 3校時 1年1組) 1年生 事後研究会
7月20日	研究会6 (全体会授業 2年2組)
8月24日	研究会7 (夏期研修会)
9月13日	研究会8 (全体会授業 5年2組)
10月13日	研究会10 (校内研修会)
11月	研究会11 (部会授業 4年1組)
11月10日	研究会12 (全体会授業 さくら学級)
12月2日	研究会13 (校内研修会)
1月19日	研究会14 (校内研修会)
1月26日	研究会15 (校内研修会)
2月2日	研究会16 (校内研修会)
2月9日	研究会17 (校内研修会)
2月10日	研究発表会 (全学年)
3月9日	研究会18 (年間反省)

